

四国サイクル・トレイン提案

2019

現在、都市への人口集中や少子高齢化にともない、地方の疲弊や過疎化などからくる問題の緩和、そして再生・活性化の方策が模索されています。地方都市のコンパクト化や、ITなど従来の経済システムから自由な事業を新たな担い手にしたまちづくり、既成の価値にとらわれない移住者の誘致、また観光資源の掘り起こしによるインバウンドの取り込みなど、実際の成果も多く上がってきています。その成否の基礎として、インフラの確保や改革は今後も大切な要素の一つです。

インフラの中でも鉄道交通は、地方の人口減少により多くが廃線の危機を抱え、第三セクター方式による経営でも行き詰まる路線が多く見られます。地元住民の利用を増やし、国内そしてインバウンドの来訪者を促す手段として、サイクル・トレイン(自転車持ち込み車両)の導入が注目されています。

この企画はJR四国を先行例として、地方(自治体・住民)と関連企業がサイクル・トレイン導入の実現を目指すものですが、「日本」全体への展開も意識できます。

【サイクル・トレイン】通常は自転車は折り畳み、専用バッグに入れて、車両に持ち込む必要があります。



skyfull★stars

背景と現状

サイクル・トレインはヨーロッパの都市交通ではコンパクト・シティー構想のもと、既に一般的な風景となっています。また、日本においても限定的ですが、行われている路線も出始めています。

■ コンパクト・シティー

ヨーロッパの都市交通では、エコで環境に優しいことから、都市の中心部から自動車を排除し、代わりにLRT(軽量軌道交通)と自転車を組み合わせたインフラが新しく採り入れられています。



コンパクトシティー



LRTと自転車



自転車を別に運搬

※ 自転車を電車に乗せるには多くのアイデアが模索されています。

■ サイクル・トレイン

日本の鉄道においても、地域の活性化のためにサイクル・トレインを実施している路線が増え、観光や旅行者だけでなく、住民の利便性で関心を集めています。



サイクリストの乗車



地域生活者の利用



住民との触れ合い

※ 地域住民と来訪者の両方で、自転車利用の価値があることが分かります。

■ サイクル on フェリー

テレビ東京『ガイアの夜明け』で紹介された、四国松山・大阪間を結ぶ「オレンジ・フェリー」の新造船では、大人気の「しまなみ海道」を訪れるサイクリスト向けに、船内に自転車を持ち込みできるサービスを戦略化しました。



しまなみ海道



新・オレンジフェリー



自転車スタンド提供

※ 四国の玄関口の一つ「しまなみ海道」が内外のサイクリストに大人気です。



■ 周辺ビジネス活性化

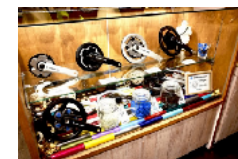
サイクル・トレインの普及を目指して、サイクル関連ビジネスの展開も活発になっています。



レンタル自転車



電動アシスト自転車



フリー・パワー

※ フリー・パワーは電気を使わない、新発明のアシスト・ギアとして注目され、NHKやTBS『がちりマンデー!』などで紹介されました。



四国の鉄道

四国の鉄道は国鉄民営化(JR)以来、長期のデフレ経済や人口減少の影響を受け厳しい経営状況の中、無人駅やワンマンカーなどコスト削減の一方、豪華観光列車「伊予灘ものがたり」「四国まんなか千年ものがたり」、また民泊予約サイトairbnbとの業務提携といった戦略的な試みを続けています。

■ 四国の鉄道網

JR四国と第三セクターの土佐くろしお鉄道(2路線)を繋げば、2ヶ所を除き四国一周が完成します。その2ヶ所も自転車を想定することで、楽しく「一周」をアピールすることが可能となります。

※ 四国の玄関口の一つ「しまなみ海道」が内外のサイクリストに大人気です。その流れを四国全体に取り込めればと想います。

※ オレンジ・フェリーや南海フェリーだけでなく、四国の魅力を創造し、サンフラーの再就航や新規参入を促し、東京方面からのアクセスも期待します。



「四国まんなか千年ものがたり」



※ 2ヶ所がミッシング・リンクとなっており、四国一周が完成していません。

※ 琵琶湖をランニングや自転車一周することが「ピワイチ」と言われて、目標になっています。四国一周を「シコイチ」として売り出します。



琵琶湖一周コース

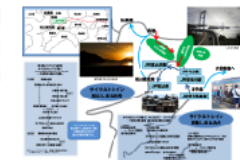
■ ことでん(志戸線)

四国では既に高松琴平電鉄が、2015年7月から志戸線で土日祝日のみ試験的にサイクル・トレインを実施しており、好評につき期間を延長しています。



■ JR四国(予讃線)

JRでも予讃線の松山駅～波止浜駅間で、「サイクルトレインしまなみ号」の運行を9月8日から10月27日に実施し、しまなみ海道から市内へのサイクリスト誘導を図っています



■ お遍路・四国巡礼

四国巡礼はユニークな歴史・文化として魅力と価値が内外から注目されており、世界遺産登録を目指し活動中です。「お接待」など住民の「心のインフラ」も整い、民泊予約サイトairbnbも推奨しています。



自治体と住民

JR四国がサイクル・トレインを全線で実施することを前提として、沿線の自治体や住民の協力が無ければ成果は限られると想います。また、企業やNPOなど民間との多様な連携が加わることで、地方全体にとってWin Winな関係が広がります。

■ 自治体や住民の協力

自治体は限られた予算の中でも、地域の活性化のためにできることは多いと想いますし、住民も魅力的な地域づくりにボランティアなど参加・協力できます。

自治体

- ・サイクリストを対象にした簡易宿泊施設
 - ※しまなみ海道の対岸、尾道市にあるサイクリスト向けの複合施設「ONOMICHI U2」では、泊まる部屋に自転車が架けられます。
 - ※空き家や廃・縮小となった小・中学校舎の教室活用で、サイクリスト宿泊施設を考えます。
 - ※沿線の自治体全体が連携して「サイクリストに優しい四国」をアピール発信します。
- ・サイクリストと交流できるカフェの開設
 - ※例えば、美波町伊座利地区の「イザリ Cafe」には、バイクもサイクリストも多く立ち寄ります。
- ・サイクリスト向けに町のガイドマップ作成
 - ※最寄り駅を中心にした町の歴史や文化・観光ガイドマップを作成し、地域を巡ってSNSなどで情報も発信して貰います。
- ・駅前にレンタル自転車の設置
 - ※駅前や町巡りの重要ポイントにスタンドを設け、四国のすべての駅間で自由に利用できるシステム(シェア・サイクル)が理想です。



ONOMICHI U2



廃校の教室活用



イザリ Cafe



歴史・文化



サイクルマップ



レンタル自転車

住民

- ・駅ホームに自転車が乗降り易くスロープを設置
 - ※コンクリートなどの資材は自治体が出して、住民有志が工事作業をボランティアで協力し、車両との段差スロープを造ります。
- ・駅ホームや道筋などを四季の草花で美しい景観づくり
 - ※駅の周辺やガイドマップで巡るスポットや道筋を、住民のボランティアで四季の草花を植え、また有志でメンテナンスもします。
- ・総合的に「おもてなし」をインターネットで発信
 - ※住民有志がウェブサイトで町の魅力をサイクリストに発信します。
- ・サイクリスト向けのスモールビジネスを起業
 - ※キャンプ場や民泊・サイクルガイドなど住民が新たに起業します。



段差スロープ



駅周辺の四季



ウェブ発信



サイクル・キャンプ場

企業とNPO

JR四国がサイクル・トレインを全線で実施することを前提として、沿線の自治体や住民の協力が無ければ成果は限られると想います。また、企業やNPOなど民間との多様な連携が加わることで、地方全体にとってWin Winな関係が広がります。airbnbとの提携も注目されています。

■ 企業やNPOと連携

鉄道会社も行政も限られた予算の中で、活発な試みを積極的に進めていくには、企業やNPOなど民間の活力と連携し利用することは、今後の地域づくりに大きな可能性を秘めています。

企業

・ 自転車関連の企業との連携

- ※ フリーパワーの開発・販売会社「サイクル・オリンピック」の広告戦略と連携することで、サイクルトレイン展開を図ります。
- ※ メジャーな自転車メーカー「ブリジストン」「パナソニック」や周辺器具メーカー「OGK」などと連携し市場も活性化します。
- ※ テントやアウトドア用品メーカーと連携しサイクル・ライフの魅力向上をサポートし、四国という「場」を提供します。

・ フェリーなど他の交通会社との連携

- ※ オレンジフェリーや南海フェリー、そしてサンフラワーの再就航など、サイクリストに便利な交通インフラを充実させます。

・ 健康など関連会社との連携

- ※ 健康・美容関連のメーカー「大塚製薬」や、化粧品、ファッションといった幅広い企業に関心を持ちます。特に女性はターゲットです。

・ 新聞やタウン誌、TV放送などメディアとの連携

- ※ タウン誌「あわわ」やローカルTV局で、サイクル・トレイン情報を採りあげて、「サイクリストに優しい四国」をアピールします。

・ 四国巡礼の宿泊施設にサイクリスト対応も要請

- ※ 単なる観光目的のサイクリストにも対応することで、収益アップと四国巡礼への理解と誘導を促します。

・ airbnbとの業務提携で民泊事業と四国の観光資源の発信

- ※ 民泊予約サイトのairbnbが集客と世界への情報発信に協力することで、四国の観光産業の活性化が大いに期待されます。

・ 鉄道および自転車関連のNPOとの連携

- ※ 鉄道愛好家の団体や、自転車協会のような組織と連携して、まずは四国でサイクル・トレインを先行して普及させ、全国展開へのロールモデルとします。

・ 都市や地域の緑化など住環境NPOとの連携

- ※ 鉄道と自転車はエコな乗り物として、その活用は住環境の向上にも高く評価されています。沿線の美化など住民ボランティアとの連携も考えられます。

・ 四国巡礼に関するNPOとの連携

- ※ 四国遍路の世界遺産登録を薦める活動とも連携します。



フリーパワー直営店



OGKヘルメット



ツーリング用品



サイクル・ファッション



清涼飲料水



JR池田駅前の簡易宿泊施設



鉄道旅行サイト



日本自転車普及協会



巡礼札所の対応



四国巡礼世界遺産

NPO